

長崎県感染症発生動向調査速報(週報)

2026年第33週 2026年8月10日(月)～2026年8月16日(日) 2026年8月20日作成

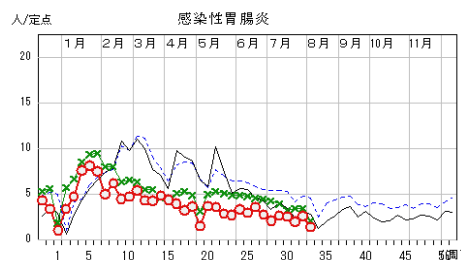
☆定点※報告疾患(定点当たり報告数の上位3疾患)の発生状況

(1) 感染性胃腸炎

第33週の報告数は43人で、前週より37人少なく、定点当たりの報告数は1.39であった。

年齢別では、2歳(9人)、4歳(5人)、20歳以上(5人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、五島保健所(7.00)、長崎市保健所(1.67)であった。

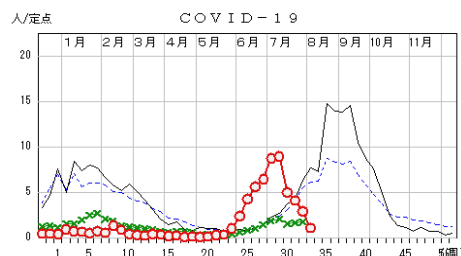


(2) 新型コロナウイルス感染症

第33週の報告数は54人で、前週より93人少なく、定点当たりの報告数は1.08であった。

年齢別では、1歳(9人)、70～79歳(6人)、30～39歳(5人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、五島保健所(2.33)、上五島保健所(2.33)、対馬保健所(1.67)であった。

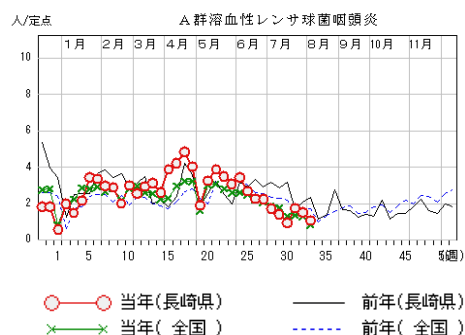


(3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第33週の報告数は33人で、前週より14人少なく、定点当たりの報告数は1.06であった。

年齢別では、5歳(8人)、4歳(4人)、7歳(4人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所(5.00)、西彼保健所(1.33)であった。



※急性呼吸器感染症定点数：50、小児科定点数：31、眼科定点数：7、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【感染性胃腸炎】

第33週の報告数は43人で、定点当たりの報告数は1.39でした。地区別にみると、五島地区(7.00)、長崎地区(1.67)は他の地区より多くなっています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第33週の報告数は54人で、定点当たり報告数は1.08でした。地区別にみると、五島地区（2.33）、上五島地区（2.33）、対馬地区（1.67）は他の地区より多くなっています。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第33週の報告数は33人で、定点当たりの報告数は1.06でした。地区別では、県南地区（5.00）、西彼地区（1.33）は他の地区より多くなっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：海外渡航の際は、感染症に注意しましょう

夏期休暇を利用して海外へ渡航される方が増えることが予想されます。海外では、日本に常在しない感染症や日本よりも高い頻度で発生している感染症が報告されています。海外滞在中にこれらの感染症への感染を防止するためには、予防方法を知っておくことが重要です。厚生労働省のホームページには海外の感染症の発生状況や予防方法に関する情報が掲載されていますので、渡航先の情報を入手し、体調管理に努めましょう。

また、帰国後に症状が出た場合は、医療機関に相談・受診しましょう。その際には、旅行先や滞在期間、飲食状況、渡航先での職歴、家畜や動物との接触の有無などについて必ず申し出ましょう。

●厚生労働省ホームページ（海外へ渡航される皆様へ）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou18/index_00003.html

●厚生労働省検疫所ホームページ（FORTH）

<https://www.forth.go.jp/index.html>

☆トピックス：新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

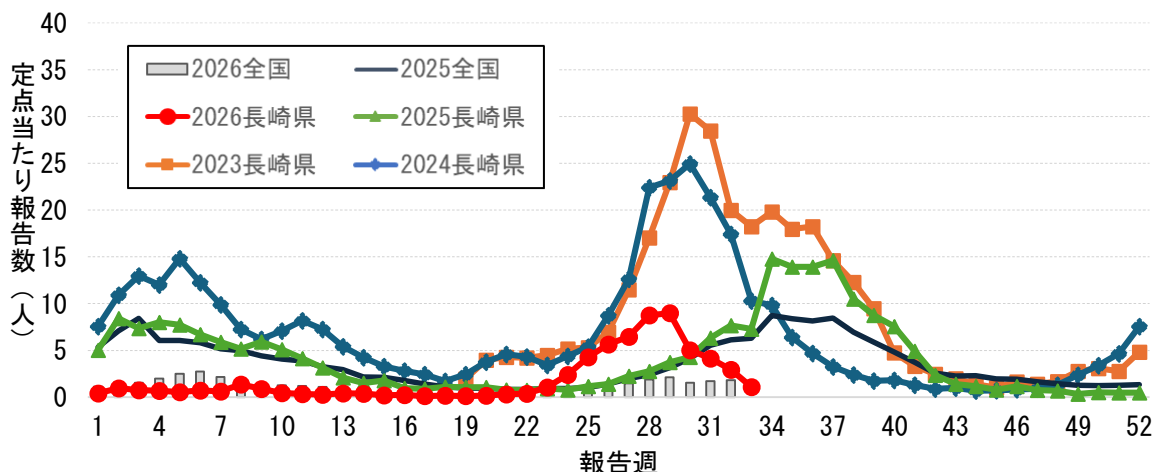
新型コロナウイルス感染症の長崎県における第33週の定点当たり報告数は「1.08」で、4週続けて減少しました。

年代別では、10歳未満（48%）が最も多くなっています。

今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

詳細は長崎県感染症情報センターホームページ「新型コロナウイルス感染症」に掲載しています。

新型コロナウイルス感染症 定点当たり報告数推移



☆トピックス：腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

腸管出血性大腸菌感染症は、O157やO26をはじめとした「腸管出血性大腸菌」による感染症です。主な感染経路は、菌に汚染された食品や患者の便で汚染されたものに触れた手を介した経口感染です。2日から9日の潜伏期間の後、腹痛・水様性下痢・血便などの症状を呈します。無症状の場合もありますが、発症者の約6%から7%が、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの合併症を起こし、時には死亡することもあります。特に、抵抗力が弱い小児や高齢者等は注意が必要です。

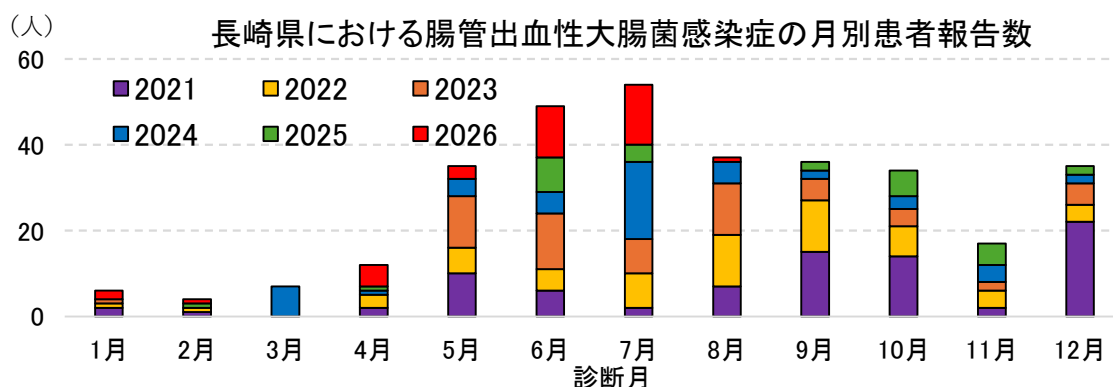
例年8月をピークに発生数が増加する傾向にあることから、8月4日に県地域保健推進課より注意喚起の情報が出されました。

今後も次の点に気をつけて感染予防に努めましょう。また、症状があるときは速やかに医療機関を受診しましょう。

- 帰宅時やトイレ・オムツ交換の後、調理・食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう
- 肉類を調理する際は十分に加熱しましょう
- 生肉を調理する際、器具は専用のものにするか、使用后すぐに十分な洗浄・消毒をしてから他の調理に使用しましょう
- 下痢症状のあるときは入浴は控え、シャワー浴または最後に入浴しましょう

●長崎県地域保健推進課（腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう）

<https://www.pref.nagasaki.jp/press-contents/50981.html>



☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。春から秋（3月から11月）にかけてはマダニ等の活動が活発になり、これらの感染症のリスクが高まります。

県内では、4月以降、SFTS 6件、日本紅斑熱 17件の報告があがっています。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖・長ズボン・長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

SFTSに関しては、近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2021年	2022	2023	2024	2025	2026
SFTS	6 (2)	13 (8)	13 (9)	13 (11)	12 (9)	6
日本紅斑熱	28 (12)	22 (3)	14 (9)	24 (14)	25 (16)	18
つつが虫病	14 (3)	7 (0)	15 (4)	11 (1)	2 (0)	1

※()は第33週までの発生件数

◆全数届出の感染症

2類感染症：報告なし
 3類感染症：報告なし
 4類感染症：日本紅斑熱 患者 男性（70代・1名）
 レジオネラ症 患者 男性（70代・1名） 女性（80代以上・1名）
 5類感染症：報告なし

◆定点把握の対象となる5類感染症

（1） 疾病別・週別発生状況 （第28～33週、7/6～8/16）

疾 患 名	定 点 当 た り 患 者 数					
	28週	29週	30週	31週	32週	33週
	7/6～	7/13～	7/20～	7/27～	8/3～	8/10～
インフルエンザ	0.06	0.73	0.41	0.69	0.48	0.58
新型コロナウイルス感染症	8.76	8.98	5.02	4.12	2.94	1.08
RSウイルス感染症	1.90	1.48	0.90	0.87	1.52	0.94
咽頭結膜熱	0.45	0.45	0.32	0.48	0.42	0.23
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.71	1.42	0.94	1.74	1.52	1.06
感染性胃腸炎	2.06	2.65	2.55	2.00	2.58	1.39
水痘	0.94	0.19	0.35	0.19	0.52	0.23
手足口病	6.52	3.94	2.90	2.03	1.94	0.74
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.06	0.06	0.13	0.06	0.10	
突発性発しん	0.39	0.29	0.26	0.35	0.29	0.35
ヘルパンギーナ	1.26	1.26	0.65	1.10	0.68	0.52
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		0.06	0.06		0.03	
急性出血性結膜炎						
流行性角結膜炎	0.88	1.50	0.63	0.75	2.38	0.71
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎						0.08
マイコプラズマ肺炎	0.08	0.42	0.17	0.25	0.17	0.08
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）			0.08			
急性呼吸器感染症（ARI）	56.76	59.08	45.88	50.24	52.68	33.40

（2） 疾病別・保健所管内別発生状況 （第33週、8/10～8/16）※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾 患 名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.58	0.29	0.82	3.67		0.38	0.50			0.33	0.33
新型コロナウイルス感染症	1.08	1.14	0.91	1.33	0.20	0.38	1.50	1.00	2.33	2.33	1.67
RSウイルス感染症	0.94		2.83		1.33	0.20	1.00	2.00			
咽頭結膜熱	0.23		0.33				0.33	2.00			
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.06	1.00	0.17	1.00	1.33	0.80	5.00			0.50	1.00
感染性胃腸炎	1.39	1.50	1.67	1.50	1.33	1.00		0.50	7.00		
水痘	0.23		0.33		0.67				1.00		0.50
手足口病	0.74	1.00	0.83		1.00	0.60			3.00	0.50	0.50
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.35	0.75		1.50		0.40	0.33	0.50			0.50
ヘルパンギーナ	0.52	1.50			0.33	0.20	0.33	2.00	0.50	0.50	0.50
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.71				3.00		1.00		1.00		
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.08					1.00					
マイコプラズマ肺炎	0.08				1.00						
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	33.40	41.43	56.64	25.33	34.60	24.00	24.75	20.00	16.67	16.67	19.00